



外科手術

特殊な腫瘍を除いては、腫瘍を治すために最も適した治療法となります。手術の際には、その腫瘍がどのような性質の腫瘍なのか十分に把握したうえで、最善の手術法を行っていきます。



平成18年度
獣医学科卒業
村上 昭弘



獣医腫瘍科I種認定医
現在32名の認定医が、全国各地で腫瘍の診療・研究を中心に活躍しています。



インフォームドコンセント(十分な説明と同意)
診療で大切なのは、飼い主様との信頼関係です。病気に
対して十分な説明と同意を得た上で治療を行います。よっ
てコミュニケーションを取ることは非常に大切なのです。

プラザディ動物病院(院長)勤務

日本獣医がん学会 獣医腫瘍科I種認定医

犬猫を中心とした診療業務

03

腫瘍治療の専門性を生かしつつ、
幅広い診療を行いたい

私 たち獣医師が日常診察する病気は、飼育環境の改善に伴い変化してきています。以前は寄生虫などの感染症を診察することが多かったのですが、最近では、ペットの高齢化に伴う心臓病・腫瘍・神経疾患に遭遇する機会が多く、中でも腫瘍はペットの死因のトップを占めています。

そのような状況の中で、私は少しでも多くの動物達を救いたいと思い、腫瘍科認定医を目指すようになりました。認定医試験では腫瘍学の知識はもちろん、基礎的な内容も問われますので、学生時代に学んだ授業や実習はとても役に立ちました。また本学付属図書館には、多数の獣医学関連の教科書があるので、試験には様々な本を読んで勉強をしていました。

今、私が新入生の皆さんへお伝えしたいことは、今の気持ちを忘れずに勉強を続けてほしいという事です。獣医療は日々進歩しています。また飼い主様から求められる医療レベルも向上しています。本学部には、優秀な先生方や教育カリキュラムがありますので、これからの6年間という時間を大切に過ごしてください。そして、皆さんが心のこもった診療ができる・地域に貢献できる獣医師になれるよう応援しております。